



**STRIDE AHEAD**

ここから創めた大人たちのストーリー



Kenichi Ohmae  
Graduate School  
of Business

ビジネス・ブレークスルー大学大学院

〒102-0084 東京都千代田区二番町3番地 麹町スクエア

E-mail: [bbtuniv@ohmae.ac.jp](mailto:bbtuniv@ohmae.ac.jp)

TEL: 03-5860-5531 FAX: 03-3265-1382

BBT大学院

検索



物事の本質を見抜く  
トレーニングが、  
それぞれの人生そのものを  
変える影響力となった。

より高いビジネスのハードルを乗り越えようと、  
BBT大学院に身をおいた5人のビジネスパーソンたち。  
その一人ひとりに、何を学び得たのかをインタビューした。

キャリア貢献度No.1を目指し、常に最先端に行くカリキュラムで  
よりスマートに実践的にMBAを取得するBBT大学院。  
洗練されたオンライン教育システムが、受講生たちの実践の場で  
いかなる影響力を与えたのか。

人生そのものが変わった、と多くが語るその理由。  
そこにはこの資本主義経済を勝ち抜くための  
「Strategic Mind(戦略的思考法)」が存在している。

## CONTENTS

Voice 1  
片山智咲子

4

Voice 2  
月岡秀樹

6

Voice 3  
大坪直哉

8

Voice 4  
栗津道朗

10

Voice 5  
守谷苗子

12

修了生満足度調査

14





## 専門性を高めれば、 グローバルビジネスで 存在感を発揮できる。

### Profile

2010年春期入学 / グローバリゼーション専攻 / 東京都在住。ソフトウェア・メーカーにて、SI構築するパートナー事業者向けに技術支援を行う。製品のデモンストレーションやセミナーでのプレゼンテーション、および実際のシステム構築案件の技術支援など幅広く携わっている。

### IT業界で生きる なかでの閉塞感

10年間、狭いIT業界のなかだけで仕事をしてきて閉塞感がありました。サーバ構築やプログラミングなどの技術は覚えたものの、作ったシステムの7〜8割が使われないと言われる業界で、変化し続ける市場で、ビジネスにいかんに貢献できるかという視点が全く不足していたのです。最新の情報を求めてシリコンバレーの企業に自ら足を運んだり、IT分野のインターネットコミュニティで世界の技術者から情報収集していたのですが、そこではグローバルな意思疎通において議論をリードしたり提案をする力のなさを痛感しました。

このような経緯から、MBAというよりもグローバルに活躍するためのスキルを補う方法を模索していたところ、マ

ーケティングから組織論、コミュニケーション能力まで様々なビジネススキルを体系的に学べるBBT大学院に魅力を感じ、迷わず応募しました。

### 高い専門性こそが グローバル展開のカギ

実際に学ぶうちにグローバルな課題への認識が一変しました。「Hidden Champions」という講座では、例えば2〜3千人の料理を一度に作れる業務用クッキングオーブンの事例が出てきます。製造できる企業が限られているうえ、トップ企業はほぼ独占状態で、注文が来れば世界中どこでも行くという対応をしているのが最初から市場はグローバルになり、販売先は全世界100カ国以上に及びます。つまり、ニッチな部門で高い専門性があれば自ずとグローバルに展開できるという事実が新鮮でした。講義で取り上げられたのはグローバルな巨大企業ではなく、ベンチャーも含め無名の企業が大半で興味が高まりました。

2年目の講義を迎える前、私がプロデュースして同期の20人と一緒にシリコンバレーの企業を訪問する機会をつくりました。このとき、「起業論」の松本孝利先生に話したところ「お前たちが行くなら」と快

く訪問企業を紹介いただいたり、BBTの後輩という関係だけで訪問を受け入れていただき他の企業を紹介してくださる先輩がいたり、「人脈って宝だな」と強く感じました。もちろん20代の頃に私がお世話になった企業にも協力してもらったのですが、シリコンバレーのチャレンジ精神が重んじられる風土に感化され、同期とチャレンジしたい事業・夢を深夜まで深く語り合うきっかけとなり、絆がより一層深まりました。勤務する国や時間、年齢や職種など一切関係なく連絡を取り合えるこの関係は壊れないし、生涯続くと思っています。

### 本質的な問題を追求する 姿勢が業務にも浸透

BBT大学院で学んだなかでは、全体の流れから「そもそも本質的な問題は何か」を客観的に見つけ、相手を見ながら伝わりやすい言葉で伝えていく「問題解決」の講義も有意義でした。これは業務でお客様さまの課題を見つけ出す際にも自然に意識しました。お客様さまが、本当に何をやりたいかを怖れずに質問できるようになったのは、市場にとって真に有効な提案を行うためにも大きかったですね。また、正しくない余計な情報に振り回されず動じなくなっただけ



でなく、重要だと思われる方向に力が注げるようになったため業務の効率が高まりました。

グローバルな展開には高い専門性が大切という事実は、個人にもあてはまると思います。もちろんスキルの高いゼネラリストは価値があります。「自分はこれができる」という専門性を磨くことの重要性も分かりました。私は、これまでにIT業界に流れる全体的な知識を把握できたと自負していますが、あと一つでも二つでも、さらなる専門性をもちたいと思っています。その意味でBBT大学院は、自分が何に向いているかを改めて見つめ直し、棚卸しするきっかけを与えてくれました。だから、BBT大学院によって人生が変わる可能性があると私は信じています。これから入学される皆さんも、それぐらいの覚悟で2年間続けられれば、良い結果が出ると思っています。





## これからは氾濫する情報を 要約し未来を構想できる人 が求められる。

**Profile**  
2010年秋期入学 / 経営管理専攻 / 東京都在住  
創業者が多い家系で育つ。IT企業で人工知能の開発、23歳最初の起業と倒産。その後3社を起業。30代、小売業にて業務改革部署を創設、経営企画を経て、現在はプロモーション企業にて新規サービス開発を行なう。趣味は消費者の購買行動分析。

### イノベーションの大切さを 発見した学生時代

母は私をリーダーに育てたかったようです。小学生の頃はとにかく色々な訓練を受けました。子どもながら人生はつらいものだと思っていました(笑)。また転校が多く、色々な価値観に触れ、この常識はよその非常識という体験を繰り返し、常識は絶対ではないと考えるようになりました。家系は創業者が多く起業が普通だと思っていましたから10代後半はその事ばかり考えて本ばかり読んでいましたね。予備校にも行かず2年間それしかしてませんでした(笑)。この時、個人のイノベーション力が企業の成敗を決めると考えるようになっていました。

### 飛び込んだビジネスの 世界で失敗の連続

最初の起業は23歳でした

失敗の連続でした。両親は優秀なセールスマンで自分もその気になって訪販の仕事を自己流で始めました。けれども何十件まわっても反応が悪かったり、もう少しのところで契約を落したり失敗の連続でした。ビジネスを体系的に学んだ事がなく基礎が分かっていなかったと思います。何年もかけてコツコツ貯めた開業資金が少しずつ減っていく恐ろしさは、今でこそ笑い話ですが、景色が本当に灰色に見えて絶望的な感じでした(笑)。

### 人生の節目での良き 指導者の方々とのお出会い

この頃出会ったのがアングロサクソン系の米国人経営者でした。ずば抜けた才能を持つ方で起業家マインドやマネジメントのスタイルを身近で見ることができました。30代初めは、中国系で商売の神様と呼ばれた方からお声がかかり既存事業の再生に没頭してました。既存事業の再生は新規事業立ち上げの難しさと違った難しさがあることを知りました。

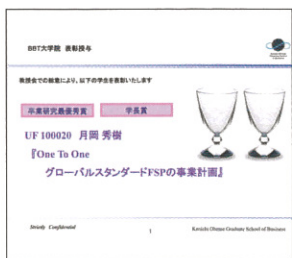
40歳でBBT大学院への入学を決めました。20代の頃、MBA取得のため米国へ行き来していましたが、内容がアカデミックな傾向が強く私の求めるものではありませんで

した。ですからBBT大学院を見つけたときは軽い興奮を覚えましたよ。あのマッキンゼーで世界のグルと呼ばれていた大前研一氏が創設した大学院、しかも「新しいものを構想してそれを事業として生み出していきける人材の育成」とあるじゃないですか。即決でした。

### 独学の限界を 超えさせてくれた場所

BBT大学院では全ての講義が高い次元で関連しており21世紀に世界で活躍できる人材が育成されるようプログラムされていると感じました。もちろん簡単には身につくまいが、イノベーション力を鍛える訓練や実在する企業の立場で次の戦略を立案する訓練を200回近く繰返す中で戦略の要諦をつかめるようになったと思います。経営戦略の良し悪しが直感的に分かり、未経験の領域においても「打ち手」が考えられるようになりました。

自ら発明やイノベーションを起こしたければ、基礎理論を体系的に習得することが大切です。私にとってBBT大学院は「独学で超えられなかったハードルを超えさせてくれた場所」です。これまでの私のビジネスモデルは、既存ビジネスの軸の延長線だった



と思います。BBT大学院での学びにより今までにない新しい軸でビジネスモデルを生み出せるようになったと思います。その成長を実感したのが、BBT大学院での学びの集大成である卒業研究で最優秀賞及び大前学長賞の二つを同時受賞した時です。提出したのは新規ビジネスの事業計画でしたが、より実現性の高い事業計画が立てられるようになったのだと感じました。BBT大学院での学びにより独学では越えられなかった目の前の「ハードル」を越えたと感じた瞬間でした。現在はその事業計画の実現に向けて邁進しています。

今は誰でも情報にアクセスできるため、知っていること自体には価値がなくなり、それを基に「未来を構想」できる人が求められていると思います。あなたがこれらを身につけられる機会がBBT大学院で見つけられると思います。





## 探していた生き方の軸は、 新たなテーマに挑戦する 気構えだと知りました。

**Profile**  
2009年春期入学 / 経営管理専攻 / 東京都在住。  
消費財メーカーで国内事業部門の複数のブランドマネージャーとして勤務。商品開発・ブランディングからプロモーション、営業推進まで幅広く一貫して手がける。また、新ビジネス開発や改善プロジェクトなど多様な局面での実力発揮が求められる。

### 自分の強みを探していた 私に響いたBBT大学院

現在の会社でマネージャーに昇進したばかりの頃、事業経営という一段と高い視点からの業務を求められていると肌で感じていました。そこで、管理職として経営者の自覚と知識を身に付けるべきと感じ、大学院で学ぶ決心をしました。30代後半という年齢も考慮して、新たな知識を吸収する最後のチャンスと思ったのです。

また、仕事のフィールドが高くなると同時に、世の中全般も広く見渡せるようになって景色が変わってきたことも感じていました。「いまここで自分は、何を強みに生きていけばいいのか」という自問自答に突き当たり、仕事と仕事以外の領域の両方を見据えたうえで、軸探しを大学院という場に求めたと言えるかもしれません。

BBT大学院の説明会で印象に残ったのは「自分で考えて前に動かしていくための自信。例えば、周りの人を仲間引き込んで味方にして仕事を広げていく方法や論理的な思考が学べる」という言葉でした。このときの内容が、自分の軸を求めていた私の心に響いたのだと思います。

### 論理と情緒が両立する 講義内容に納得

誰にも苦手な科目はあると思いますが、私の場合は企業財務に必要な基礎知識を修得する「コーポレート・ファイナンス」でした。対策として、頭のフレッシュな早朝を学ぶ時間に充て、学生間で評判が良い基本書を読み込んで講義に臨むと理解度が格段に向上して、非常に効果的でした。また、いい格好をしているも取り残されるだけなので、TA (Teaching Assistant) の方に遠慮なく質問しました。こうしてがむしゃらに挑んだ結果、途中から逆に講義が面白くなって、成績はAを取る事ができました。

ロジカルな知識習得の場のイメージがあったBBT大学院で意外だったのは、リーダーにはロジカルさとエモーショナルさが共に必要だというメッセージです。松本先生の「起業論」で、起業体験に裏付

けられた論理的原則と共に、「Open To Discussion」「失敗を言いやすい風土をつくろう。」「Fun Place To Work!」等々、リーダーが人を動かすために持つべき視点・キーワードが強く印象に残りました。また、ロジカルシンキングの元祖で、日本に戦略的思考を持ち込んだ典型的な左脳系イメージのあった大前学長が「事業を起す」というのは、結局仲間つくりだ。」と講義でメッセージされていたのが、ロジカルさとともにエモーショナルな内容も重視するBBT大学院の特色を示していると思います。

### 軸を探し求めた末に 無限の可能性を実感

BBT大学院の良さは、単なる座学ではなく実学として即効性がある点です。入学前の私は論理的に説得するタイプでしたが、リーダーシップは必ずしも先頭に立って引張る体育会型ばかりではなく、出遅れた人間を引き上げたり、チームがまとまらないときに自分がムードメーカー役を買って出たりする等、多様なあり方が重要だと思えるようになりました。顧客が多様化する時代にあつては、社内も多様化しなければなりません。組織のなかで多様化する個人をどう活かして前に進めていけ



るかが、変化する時代のリーダーに求められるテーマだと教えられ、それを実践するようになっていきます。これから入学される皆さんは、BBT大学院の首尾一貫したカリキュラムを通じて、これほどまでに実践の場で使えるのかと、実感されるでしょう。

「軸探し」を求めて入学したBBT大学院でしたが、「お前の軸はこれだ」と大学院が差し出してくれたわけではありません。しかし、「新しいテーマに新しい考え方や戦略でチャレンジしていこう」という気構えこそが、私を新たな世界に導いてくれる、と教えてもらった気がします。要は、「自分という存在は有限かもしれないが、心が次第で無限にもなり得る」ということでしょうか。それが私の一つの軸ではないかと今は思っています。BBT大学院は、このように人生の捉え方そのものを変えてくれる場所でもあるのです。





## 刷り込まれるような講義で コミュニケーションの方法が 根本的に変わります。

**Profile**  
2010年春期入学/グローバルゼーション専攻/東京都在住。大手総合電機メーカーのブランドコミュニケーション本部宣伝部にてWEBディレクターとして勤務。海外メンバーと連携してWEBマーケティングを促進しながら、WEBコンテンツ制作全体のマネジメントを実施している。

### 日本の商習慣を強みに 海外とつながりたい

私は、転職によって、英語で海外メンバーと連携をとる希望の職種に就けたのですが、英語や業界知識に習熟しただけで仕事がつなぐこなる訳ではなく、海外メンバーとコミュニケーションする難しさを肌で感じていました。一方、社内でもグローバルな事業展開の必要性が急速に高まっていると実感していました。

そんなとき、信頼する先輩社員を通してBBTのことを知り、その後女性のためのMBAセミナーに参加しました。そこで出会ったMBAホルダーの女性たちや意識の高い参加者のなかに、私が抱いていた課題との共通点を見つけたのです。このとき、グローバルに活躍していくための方法論や、企業が生き抜くための知識をBBT大学院で学

びたいと思いました。また2年次のプログラムが「Public」という履修スタイルだと知り、英語を使つての議論は非常に有意義だとも感じました。海外でMBAを取得する方法もありますが、時間的に難しいのはもちろん、私は日本人として日本の商習慣を強みに海外とコミュニケーションしたいという思いがありました。そこで、迷うことはありませんでした。

### 曖昧な発言はできない ディスカッションの場

入学してみても感じたのは、多数の意見を集約しながら培っていく「集団知」の奥深さです。それを実感したのが、講義の後でお互いの意見をオンライン上で交換し合うディスカッションの場でした。自分の意見が全てテキストとして残ってしまうので、無責任なことは言えません。講義も、議論のテーマを想定しながら

義によっては自分の理解度が低い部分を仲間によって高めようという機会もありますし、月に1度は実際に会って議論を行う機会をつくっていたので、刺激を受け、励まされることもあります。

実践的な講義も役立ちました。例えばプレゼンテーションの講義では、自らセットしたカメラに向かって提案し撮影した映像を、受講する学生全員にYouTubeで公開します。ここでも互いにコメントし合うのですが、自分のプレゼンテーションについて細かく指摘される状況は現実では少ないので、「笑顔が少ない」など、自分では意識していないクセが分かります。また、人への評価が自分にもあてはまるという気付きもあり、新鮮でした。

### コミュニケーションの とり方に自然と変化が

「集団知」を実感できた経験は日々の業務でも生きています。自分の答えが全て正しいわけではないと常に考えるようになり、新たに第三者の意見を聞いたり、相手の意見を尊重して物事を考えるようになりました。また、自分自身の考え方も一点に縛られず、俯瞰して見られるようになったと思います。

海外メンバーとのコミュニ



ケーションでは、一人ひとりの特性やその国の文化・国民性を考えて、アプローチの方法や理解する道筋を探すようになりました。グローバルゼーション専攻の2年次は、国によるビジネス習慣の違いや日本社会の特異性について、刷り込まれるように何度も講義されるので、いつしか体に染みついて自分の一部になってしまい、コミュニケーションのとり方が自然に変化していったのだと思います。

将来は、日本企業の海外進出や、海外企業が日本に参入する場合には、架け橋となる人材として活躍したいです。そのためには、日々変化する社会に合わせて今後もトレーニングを積み必要がありますが、BBT大学院は将来に向けた力強いモチベーションを与えてくれました。決して後悔はしないと思いますので、興味をもたれた方は躊躇せず早く入学してチャンスをつかんでほしいですね。



集中して見ることになりません。また、学生たちは皆がビジネスパーソンであり、時間が限られるな無駄な発言はできないため、必然的に相手の意見を理解したうえでの中身の濃い意見交換になります。口頭での議論では曖昧な発言や不可解なまま進む展開も見られませんが、オンライン上ではそれがありません。ただ、講